

政策名	1グローバルロジスティクスの港	施策推進 責任者	企画調整室長
基本施策名	01国際・国内海上輸送機能の強化		
個別施策名	08伊勢湾内連携を強化する		

1. PLAN(目的・内容)

目的	サービスの対象者(誰のために)	船社、港運、物流企業、荷主					
	サービスの対象物(何を)	名古屋港及び四日市港のコンテナ機能等					
	意図(どういう状態にしたいのか)	多様なニーズに柔軟に対応できる					
内容	中部地域のものづくり産業の国際競争力強化を物流面で支援していくために、名古屋港は四日市港や中部国際空港と相互に連携し、コンテナ取扱機能の強化、ロジスティクス機能の拡充や災害対応力の強化を図ることにより、伊勢湾全体の港湾サービス水準を向上させ、多様な物流ニーズに柔軟に対応できるようにしていきます。						
	目標	伊勢湾スーパー中枢港湾(名古屋港・四日市港)の外貿コンテナ貨物の増加を図ります。				目標達成に影響する外的要因等 世界の景気動向による貨物量減少	
成果指標名		単位	実績			目標	指標の説明(式)
			H19年	H20年	H21年	H22年	
名古屋港・四日市港の外貿コンテナ取扱個数	実績目標	万TEU	281	280	221	330	伊勢湾スーパー中枢港湾育成プログラムに基づく目標値
	達成率	%	85.2	84.8	67.0		
	実績目標						
	達成率						

2. DO(個別施策を構成する事務事業の今後の方向性)

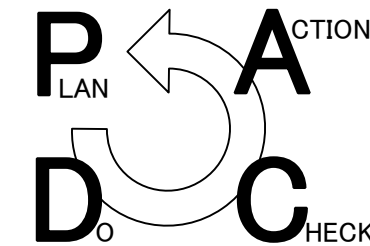
重点化	事務事業名(コード)	事務事業の概要	主な成果指標 又は活動指標 (単位)	成果・事業費(千円・人件費込)				目標値 (目標年度)	21年度 末まで の状況	今後の方向性		判断の理由	
				H19年度	H20年度	H21年度	H22年度			事務事業 の 方向性	取組の方向性		
				実績 決算額	実績 決算見込額	目標 予算額	目標 予算額				成果		コスト
	伊勢湾スーパー中枢港湾連携施策の推進 (1010801)	国、四日市港管理組合、中部国際空港(株)及び本組合等で構成する伊勢湾スーパー中枢港湾連携推進協議会の運営を事務局の一員として行います。	連携施策の実施件数(件)	1	2	1	1	1 (H22)	順調	終了	組織、体制を見直して実施していく必要があるため。		
			施策コスト (事業費合計)	9,554	9,647	6,007	2,195						

注) 事業費は総事業費から本組合負担分を抽出して計上しています。

注) 目標値欄の「継続事業」は完了年度を定めず行う事業です。この場合の目標値及び目標年度は、原則としてH24年度の間目標として設定しています。

4. ACTION(取組)

取組の方向性			
成果	拡大		○
	維持		
	縮小		
		縮小	維持
		コスト	
判断の理由			
組織、体制を見直して実施することにより成果の拡大を図る必要があるため。			



3. CHECK(個別施策の実現に向けた今後の展開方向)

現状における課題認識	
<ul style="list-style-type: none"> 国際コンテナ戦略港湾の選定結果を受け、連携推進協議会の目的や協議内容が変わることとなります。これをしっかり整理したうえでの速やかな対応が必要ですが、必要な連携施策を確実に進めるための体制が整っていません。 平成22年2月、国土交通省は、スーパー中枢港湾施策を総括した上で、新たに国際コンテナ戦略港湾施策の取組を開始した。平成22年5月に、名古屋港は四日市港と共同で「伊勢湾の国際コンテナ戦略港湾の選定に向けた計画書」を提出し、連携施策を進めるため、「伊勢湾スーパー中枢港湾連携推進協議会」を発展的に改組して、「伊勢湾連携協議会」を立ち上げることとなりました。 	
構成事務事業の適正性 (事務事業の構成内容の妥当性)	
<ul style="list-style-type: none"> 国際コンテナ戦略港湾の選定結果を受けた事務事業の見直しが必要です。 	
今後の展開方向 (新規事業の創出、事務事業の見直し等)	
<ul style="list-style-type: none"> 「伊勢湾の国際コンテナ戦略港湾の選定に向けた計画書」における四日市港との連携施策については、国の支援等の状況を踏まえながら、9月に設立の伊勢湾連携協議会のなかで、必要な連携施策の共通認識を図りつつ推進施策の精査を行っていきます。 推進すべき連携施策については、その推進体制を整えて実現に向けた取り組みを進めます。 	